



University of the Ryukyus



令和6年度
琉球大学

概要版

SDGsに関する 教職員・学生アンケート調査報告書



琉球大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

琉球大学 SDGs 推進本部

1. 調査概要

(1) 調査の目的

SDGs（持続可能な開発目標）への取組について、教職員及び学生の理解度、考えや実践等のアンケートを行うことで、本学における SDGs 活動のチェックを行い、改善しながら SDGs 達成に貢献することを目的としています。

(2) 調査方法・集計表の見方

(1) 調査方法

教職員及び学生（学部学生・大学院学生）を対象に、Web 形式によるアンケートを実施しました。

(2) 集計数値の見方

本報告書に記載する数値は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはなりません。

帯グラフでは数値が 0.0 の場合記載はしません。

(3) 回収結果

(1) 教員・職員

調査実施日	: 2024 年 12 月 9 日～2025 年 1 月 10 日
回答者数	: 教員（常勤・非常勤） 172 人/873 人
	: 職員（常勤・非常勤） 282 人/2,718 人

(2) 学部学生・大学院学生

調査実施日	: 2024 年 9 月 24 日～10 月 31 日
回答者数	: 学部学生 3,226 人/7,038 人
	: 大学院学生 577 人/838 人

(4) SDGs（持続可能な開発目標）とは・・・

すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。SDGs の目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030 年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。

【出典：国際連合広報センター】

本学では、第 4 期中期目標・中期計画において、教育・研究等活動における SDGs の取組の推進と島嶼地域の課題解決に向けた多様なステークホルダーとの連携・協働を掲げており、これらをスムーズに進めていくためには、何よりも教職員が SDGs に関して自分ごとと認識し、自発的アクションを促していくことが求められます。

2. 教員・職員

(1) 教員・職員の SDGs の理解度

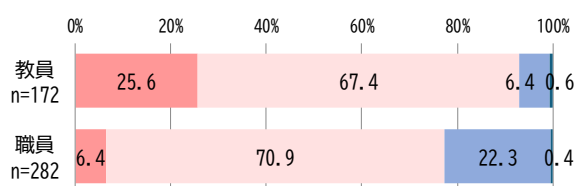
教員・職員

SDGs の理解度について、「教員」のうち「内容をよく理解している」と回答した割合が 25.6% に対し、「職員」は 6.4%と、19.2 ポイントの開きがあります。教員は講義等で実践の機会があるものの、職員について実際の行動に結びつけられるような取組を展開していくことが重要です。

教員は約 9 割が SDGs の内容を理解していることから、研究テーマと SDGs の目標やターゲットを結びつけるなどの工夫で、既に SDGs の取組を行っている「気づき」につながることも考えられます。

SDGs の理解度＜教員・職員＞

■ 内容をよく理解している ■ 内容をある程度理解している
■ 内容をあまり理解していない ■ 内容をまったく理解していない



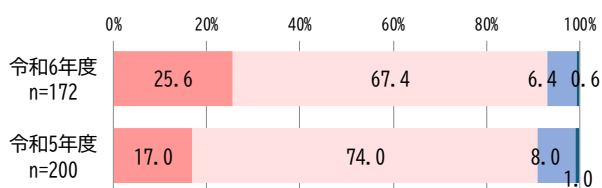
教員
職員

<理解している>	
内容をよく理解している	+
内容をある程度理解している	
93.0%	
77.3%	

<理解していない>	
内容をあまり理解していない	+
内容をまったく理解していない	
7.0%	
22.7%	

経年比較 SDGs の理解度＜教員＞

■ 内容をよく理解している ■ 内容をある程度理解している
■ 内容をあまり理解していない ■ 内容をまったく理解していない



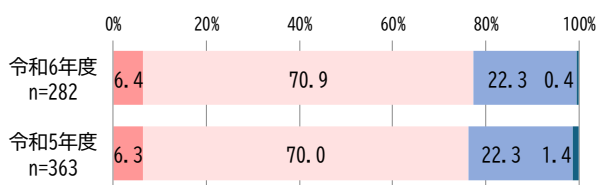
令和6年度
令和5年度

<理解している>	
内容をよく理解している	+
内容をある程度理解している	
93.0%	
91.0%	

<理解していない>	
内容をあまり理解していない	+
内容をまったく理解していない	
7.0%	
9.0%	

経年比較 SDGs の理解度＜職員＞

■ 内容をよく理解している ■ 内容をある程度理解している
■ 内容をあまり理解していない ■ 内容をまったく理解していない



令和6年度
令和5年度

<理解している>	
内容をよく理解している	+
内容をある程度理解している	
77.3%	
76.3%	

<理解していない>	
内容をあまり理解していない	+
内容をまったく理解していない	
22.7%	
23.7%	

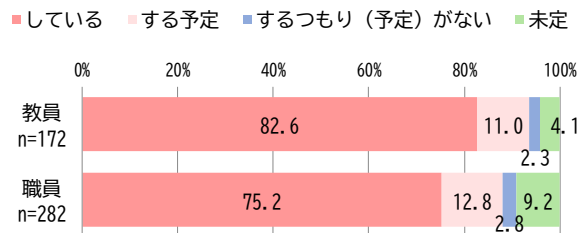
(2) 課題解決の取組

教員・職員

課題解決の取組は、教員の 82.6%が実践しているとの回答に対して、職員は 75.2%となっており、7.4 ポイントの開きがあります。

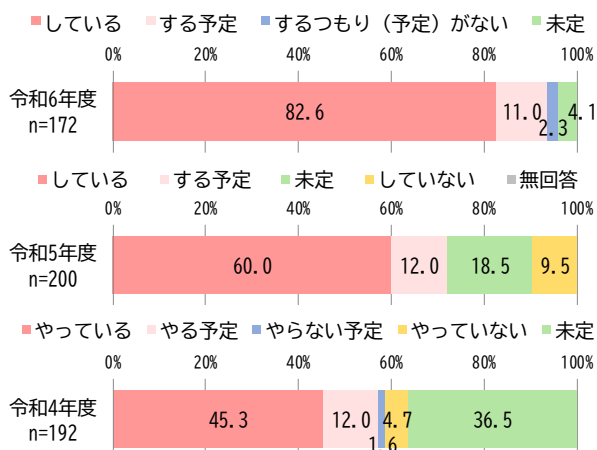
教員・職員ともに、所属別に実践状況に開きが見られるものの、SDGs の取組は自身の生活とかけ離れたことではないことを理解してもらう必要があります。

課題解決の取組＜教員・職員＞



	<取組をしている> している + する予定	<取組をしていない> するつもり（予定）がない
教員	93.6%	2.3%
職員	88.0%	2.8%

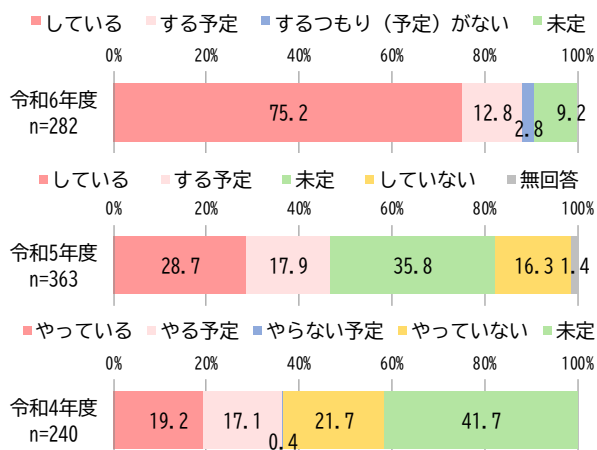
経年比較 課題解決の取組＜教員＞



	<取組をしている> している + する予定	<取組をしていない> するつもり（予定）がない
令和6年度	93.6%	2.3%
令和5年度	72.0%	0.0%
令和4年度	57.3%	1.6%

※ 色の選択肢は、令和4年度及び5年度は「していない」であったが、令和6年度は「するつもり（予定）がない」に変更しています。

経年比較 課題解決の取組＜職員＞



	<取組をしている> している + する予定	<取組をしていない> するつもり（予定）がない
令和6年度	88.0%	2.8%
令和5年度	46.6%	0.0%
令和4年度	36.3%	0.4%

※ 色の選択肢は、令和4年度及び5年度は「していない」であったが、令和6年度は「するつもり（予定）がない」に変更しています。

(3) 重点的に取り組むべき目標

① SDGs17 の目標で特に重要であると思う目標（複数回答）

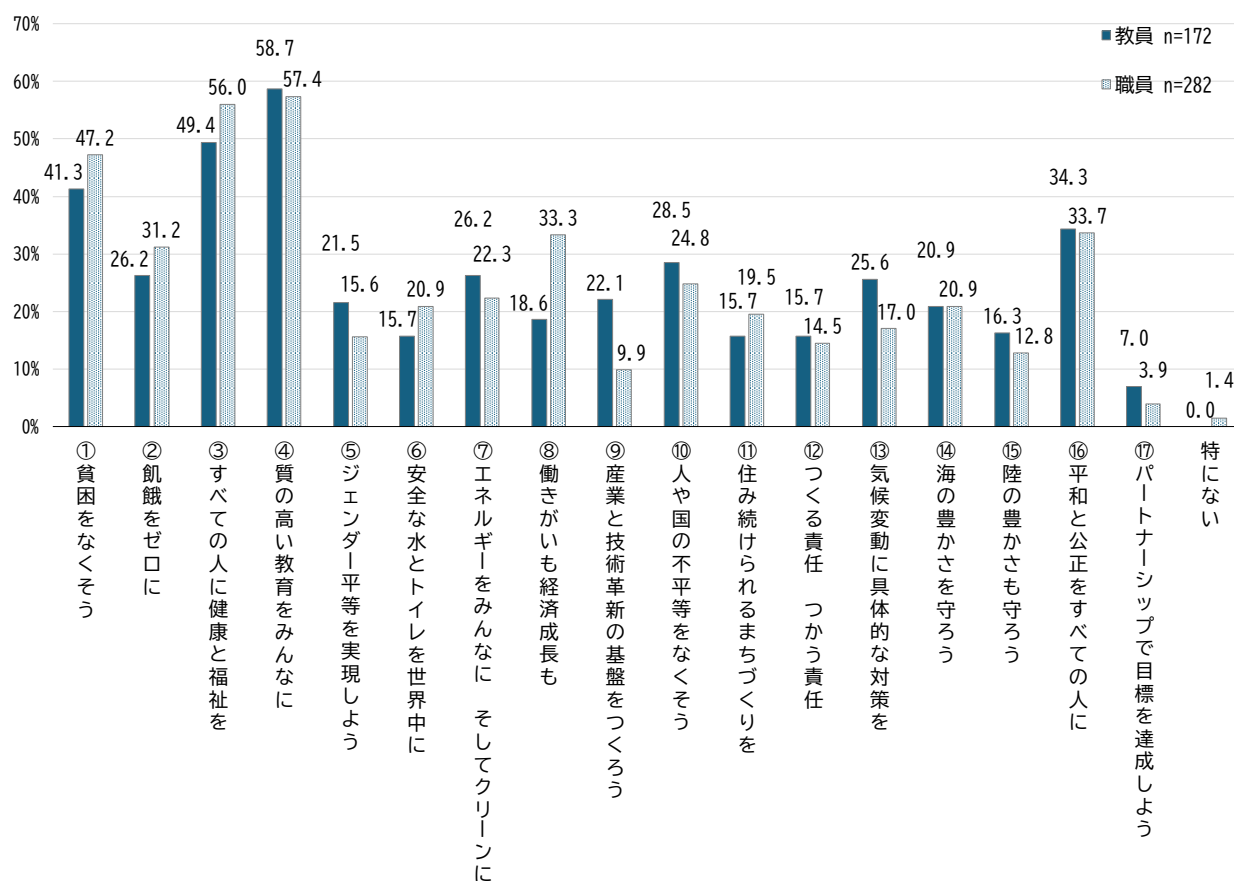
教員・職員

割合が高い順に「④質の高い教育をみんなに」、「③すべての人に健康と福祉を」、「①貧困をなくそう」及び「⑯平和と公正をすべての人に」が教職員ともに上位を占めています。

教員の特徴は、「⑨産業と技術革新の基盤をつくろう」、「⑬気候変動に具体的な対策を」について割合が高く、職員は教員と比較し、「⑧働きがいも経済成長も」、「⑥安全な水とトイレを世界中に」の割合が高くなっています。

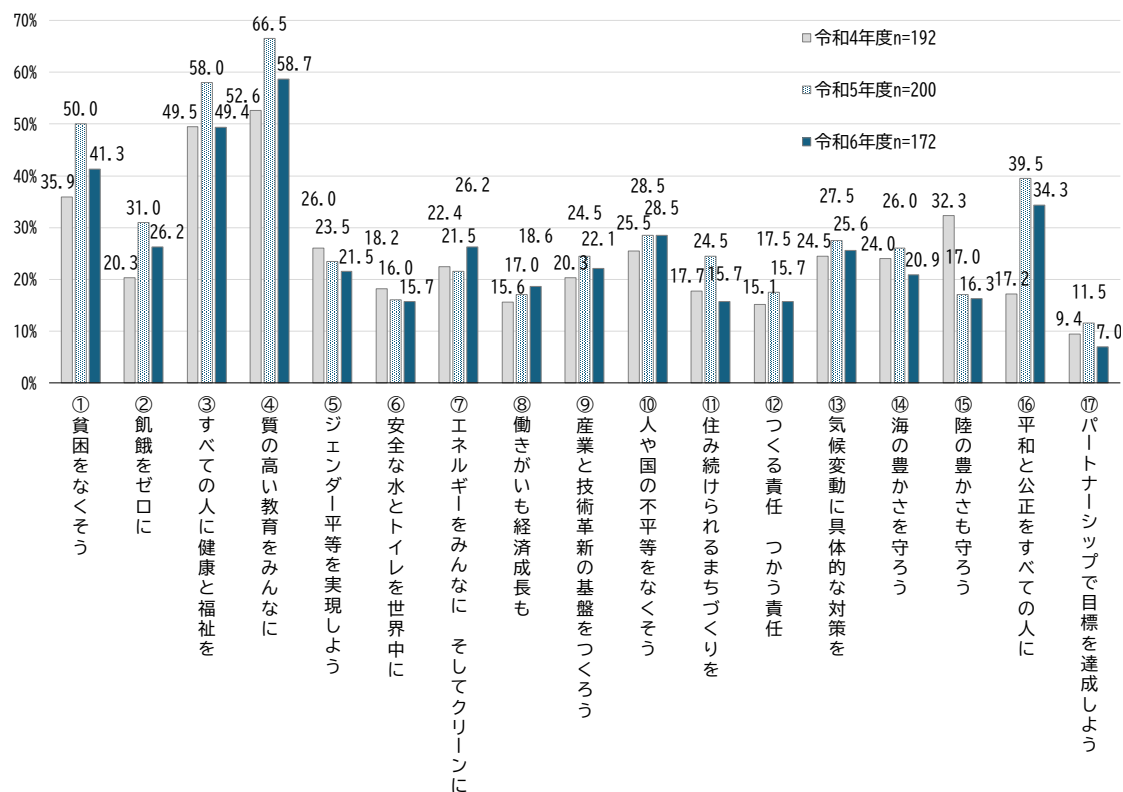
教職員で重要である目標が異なる部分もあることから、各役割に応じた取組事例などの PR を兼ねた教職員への周知、学外の多様なステークホルダーとの連携などの紹介を通じて、SDGs の理解度や実践度を高めることが重要です。

SDGs17 の目標で特に重要であると思う目標＜教員・職員＞



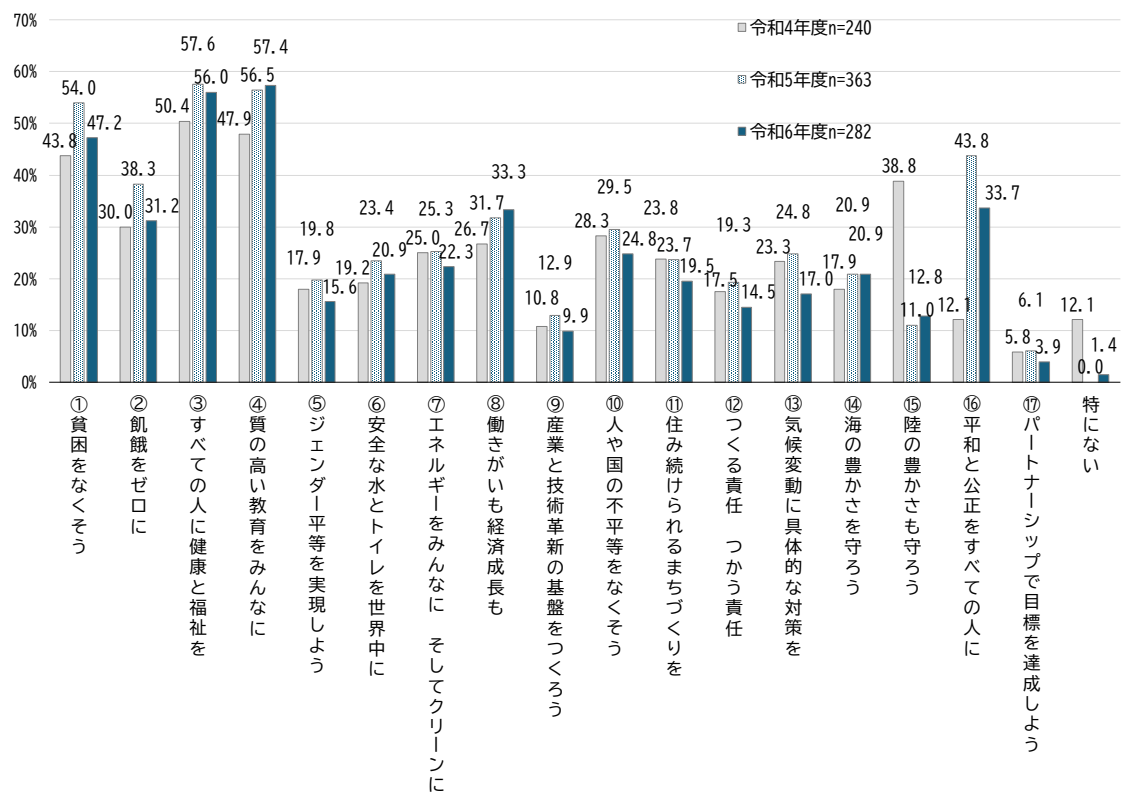
教員

経年比較 SDGs17の目標で特に重要であると思う目標<教員>



職員

経年比較 SDGs17の目標で特に重要であると思う目標<職員>



② SDGs17 の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標（複数回答）

教員・職員

教員・職員ともに、「④質の高い教育をみんなに」が最も高い割合になっています。

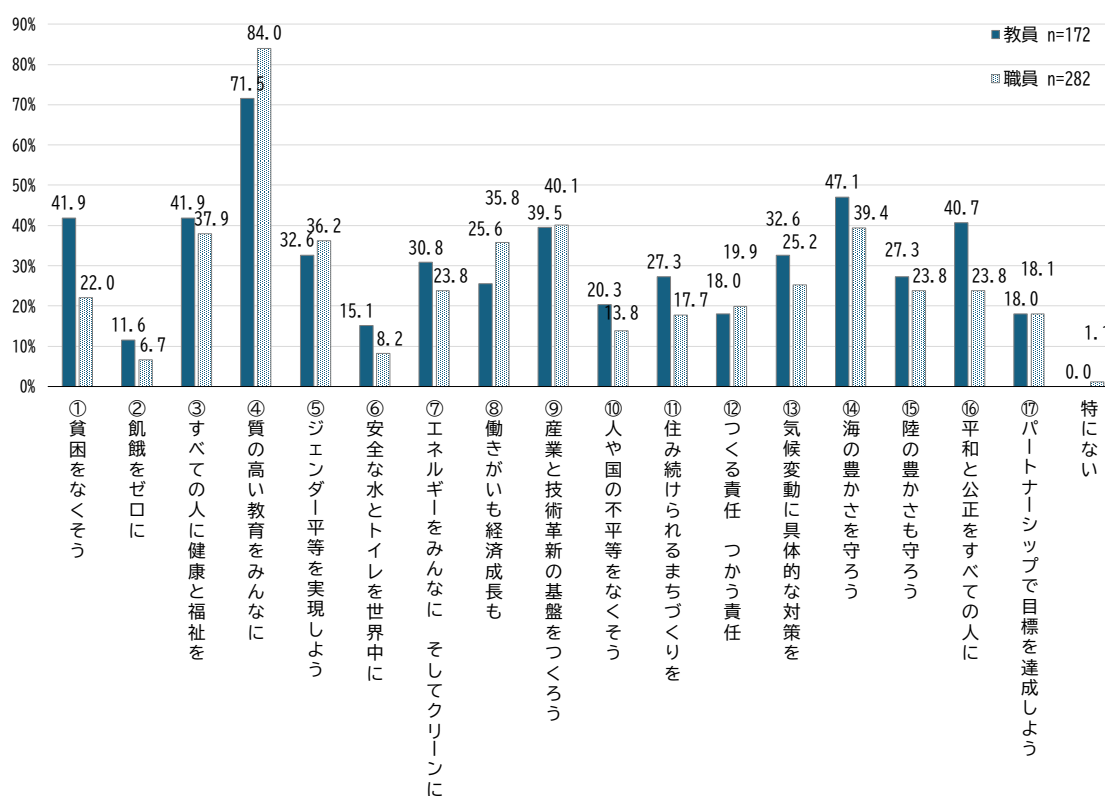
教員については、「④質の高い教育をみんなに」に次いで、「⑭海の豊かさを守ろう」が 47.1%、「①貧困をなくそう」、「③すべての人に健康と福祉を」が 41.9%となっています。

職員については、「④質の高い教育をみんなに」に次いで、「⑨産業と技術革新の基盤をつくろう」が 40.1%、「⑭海の豊かさを守ろう」が 39.4%となっています。

「①貧困をなくそう」は教員が 41.9%に対して職員は 22.0%と 19.9 ポイントの開きがあり、教員と職員で認識が異なっています。

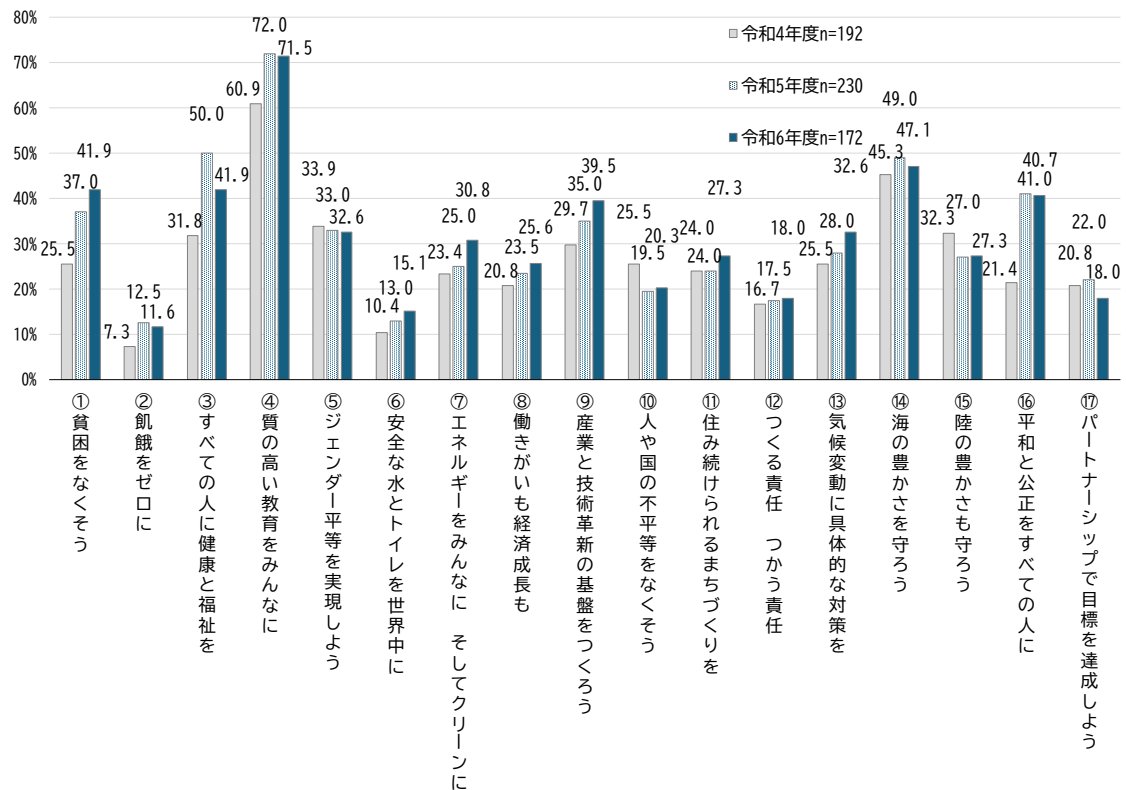
一方、亜熱帯の島嶼に位置する本学の特徴となる「⑭海の豊かさを守ろう」は教職員ともに 4 割程度となっています。

SDGs17 の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標＜教員・職員＞



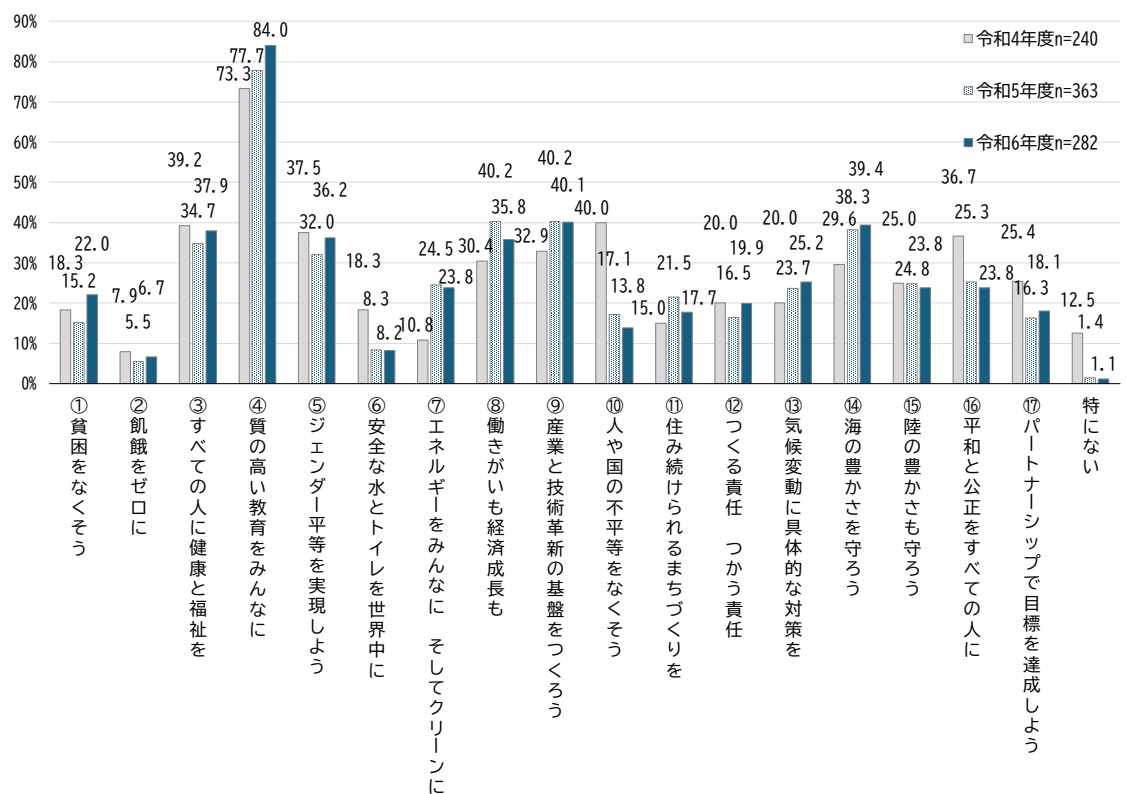
教員

経年比較 SDGs17 の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標<教員>



職員

経年比較 SDGs17 の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標<職員>



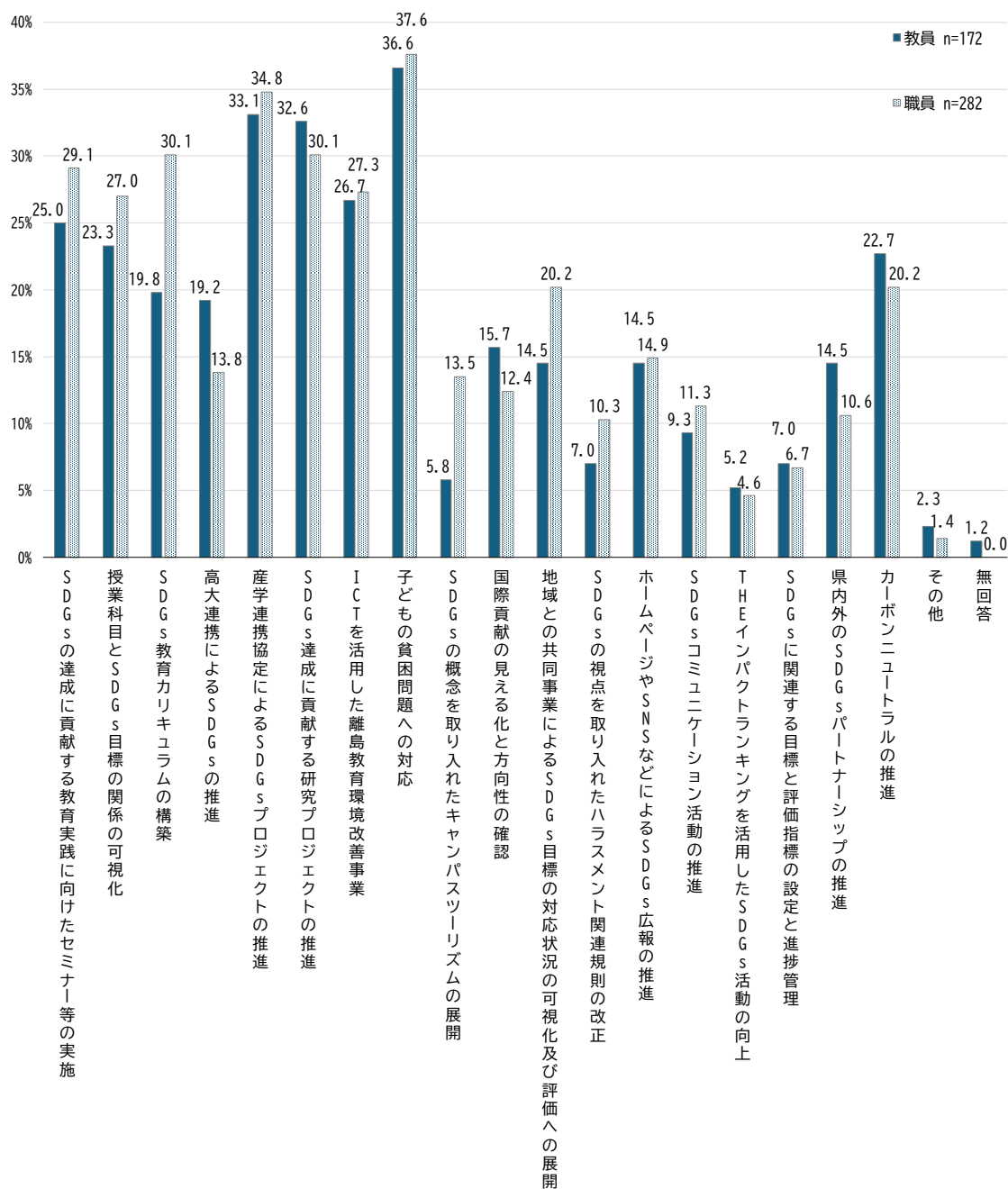
③ 琉球大学 SDGs 推進本部が重点的に取り組むべきだと考える項目（複数回答）

教員・職員

「こどもの貧困問題への対応」が教員 36.6%、職員 37.6%で上位となりました。

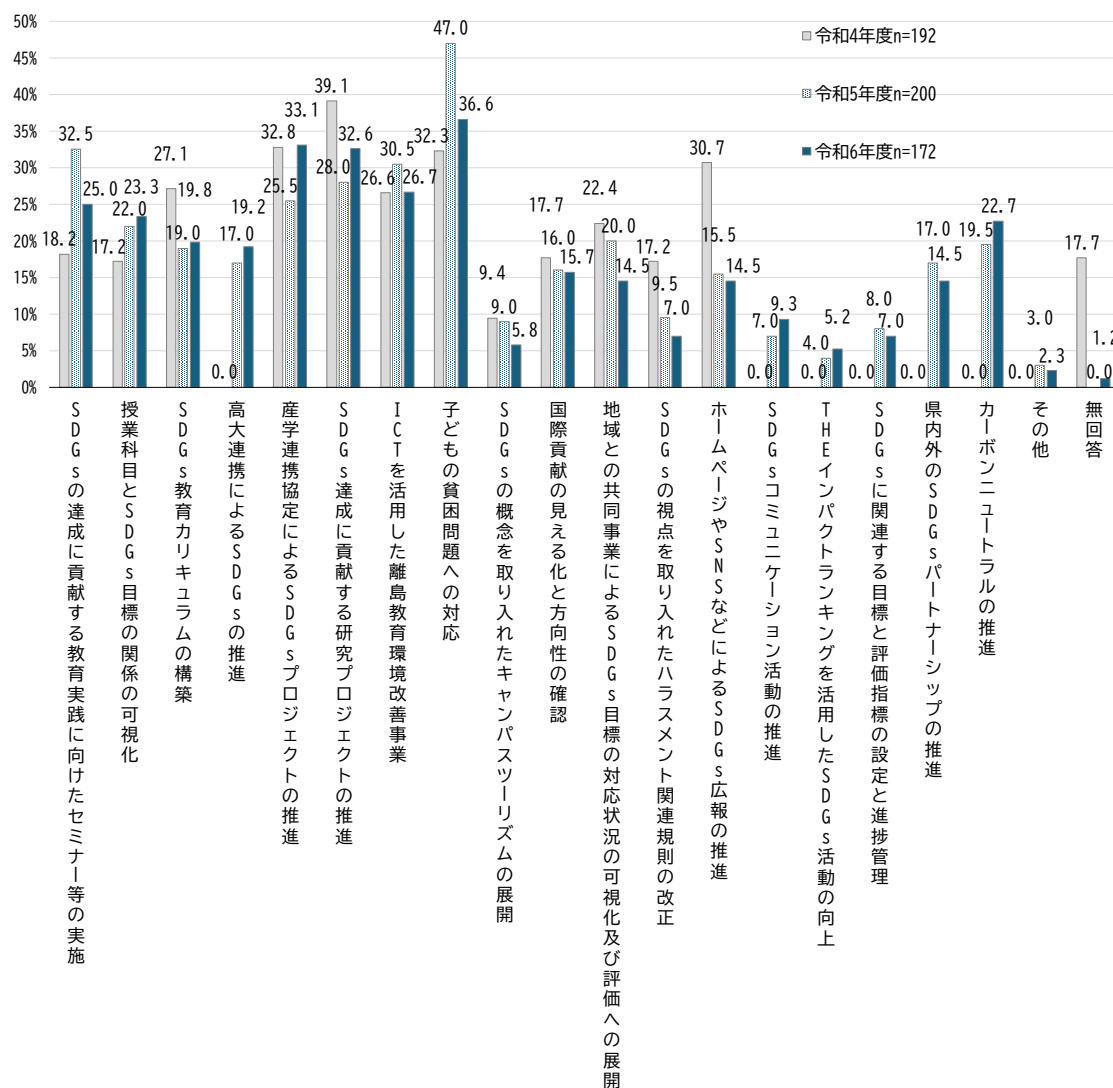
教職員が重点的に取り組むべきだと考えている項目を考慮し、SDGs 推進本部における今後の取組を推進していくことが重要であると考えます。

琉球大学 SDGs 推進本部が重点的に取り組むべきだと考える項目＜教員・職員＞



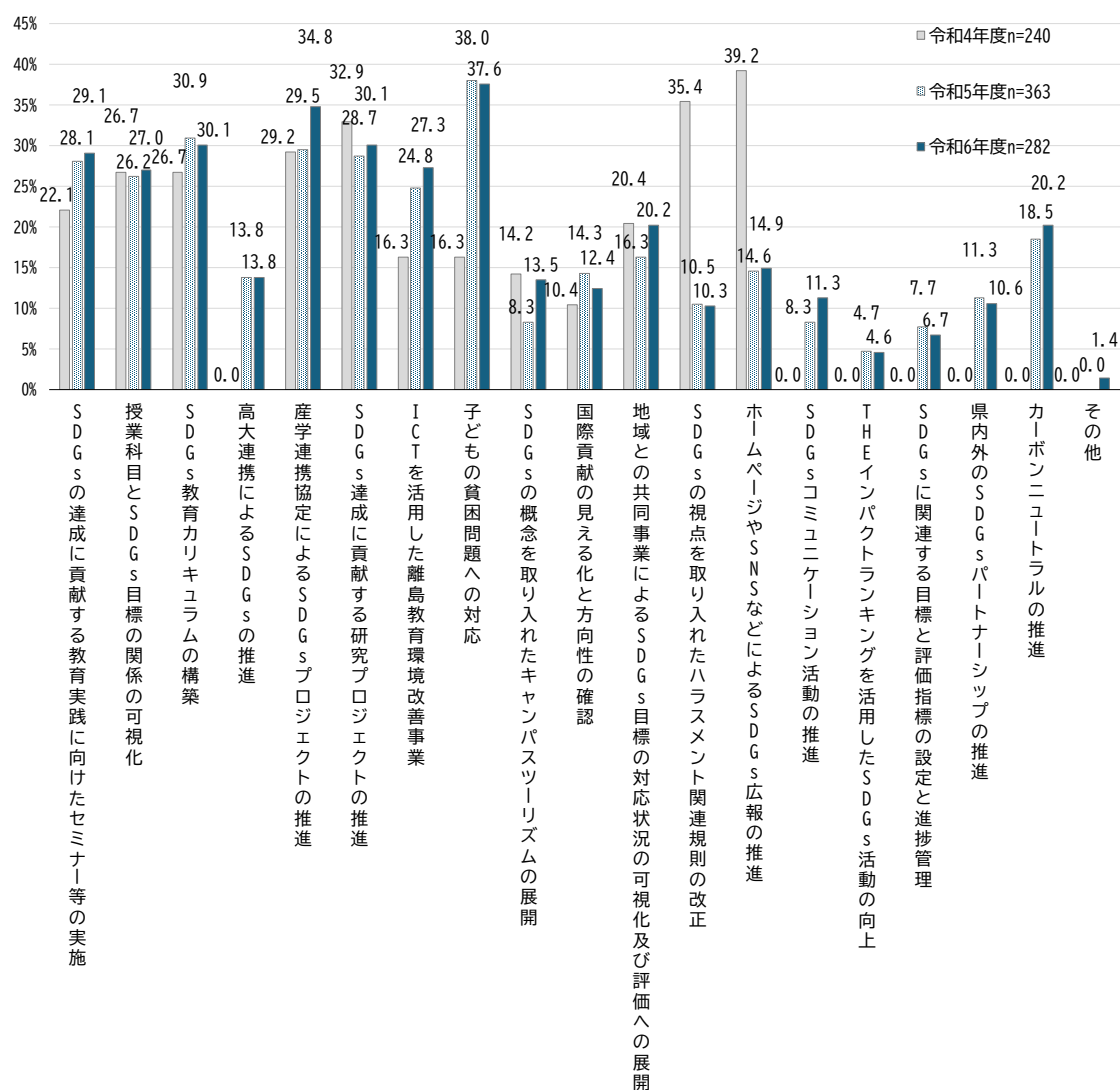
教員

経年比較 琉球大学 SDGs 推進本部が重点的に取り組むべきだと考える項目＜教員＞



職員

経年比較 琉球大学 SDGs 推進本部が重点的に取り組むべきだと考える項目＜職員＞



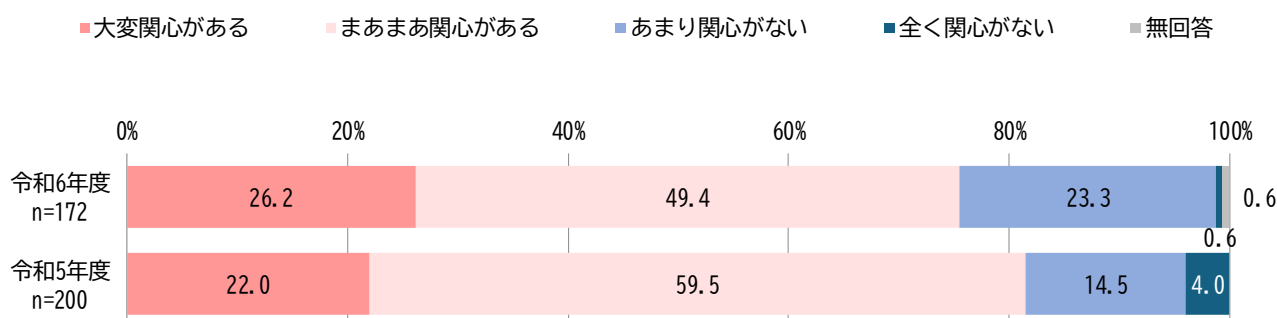
(4) 教員とSDGsとの関わり

教員

SDGsに関連する科目の提供について、「関心がある」教員（大変関心がある（26.2%）＋まあまあ関心がある（49.4%））は、75.6%となっており、令和5年度と比較すると5.9ポイント関心度が下がっています。

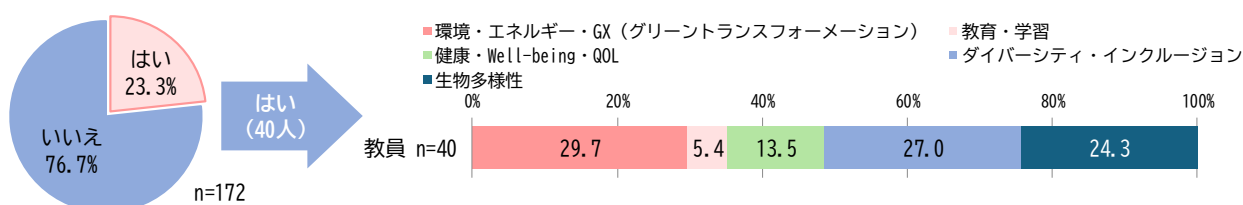
所属別では、「関心がある」としている部局が多い一方、「関心がない」と回答した教員が多い部局もあり、関心が低い理由の調査も必要です。

経年比較 SDGsに関連する科目提供への関心度＜教員＞



「あなたは産学官連携で共同・受託研究がありますか。」という設問に対して、「はい」との回答は23.3%、「いいえ」は76.7%で、「いいえ」が高い結果となります。

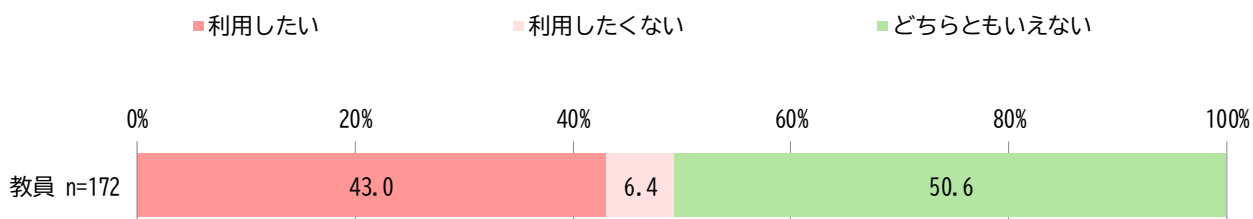
SDGsに関連する産学官連携



支援制度の利用の意向については、「利用したい」が43.0%ですが、「どちらともいえない」が50.6%を占めています。

支援制度の内容や活用方法、メリットについて、丁寧に説明することで、利用したいと思う研究者が多くなることが想定されます。

SDGs達成に貢献する研究テーマへの支援制度（学内公募など）の利用意向＜教員＞



3. 学部学生・大学院学生

(1) 学生の SDGs の理解度

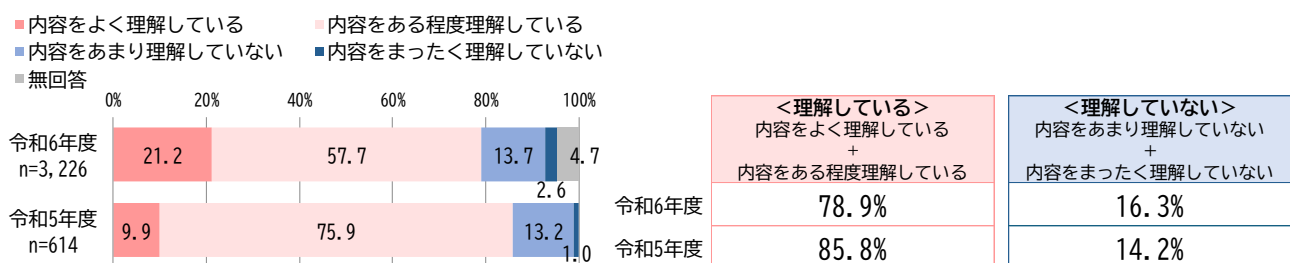
学部学生

内容を理解している「学部学生」（内容をよく理解している（21.2%）＋内容をある程度理解している（57.7%））は 78.9%と高い割合になっています。

学部別では、国際地域創造学部の「内容をよく理解している」（26.9%）、次いで理学部（21.5%）となります。

令和 5 年度と比較すると、「内容をよく理解している」の割合が 11.3 ポイント増加しています。

経年比較 SDGs の理解度＜学部学生＞

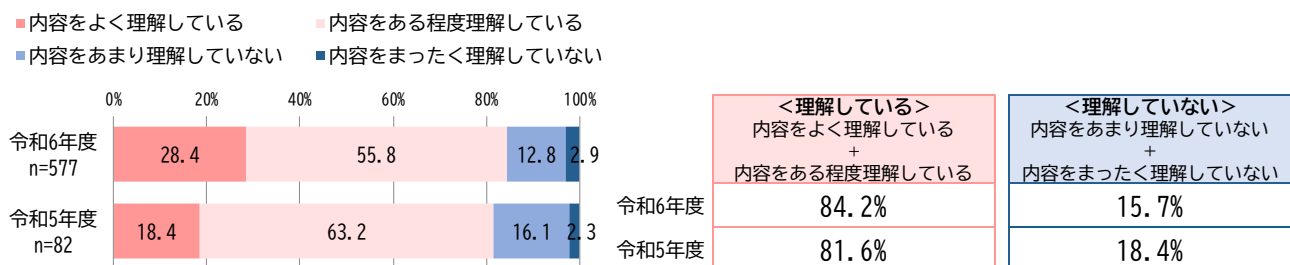


大学院学生

内容を理解している「大学院学生」（内容をよく理解している（28.4%）＋内容をある程度理解している（55.8%））は 84.2%と高い割合になっています。

令和 5 年度と比較すると、「理解している」の割合は 2.6 ポイント増加し、理解度が向上しています。

経年比較 SDGs の理解度＜大学院学生＞



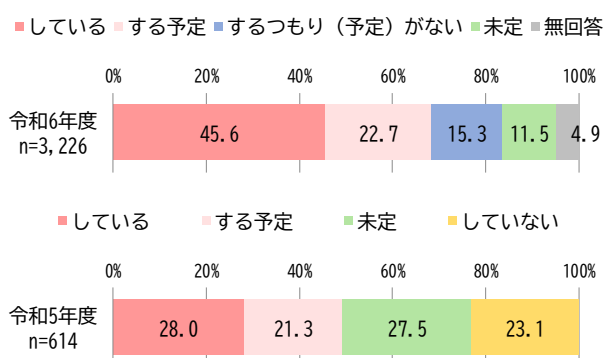
(2) 課題解決の取組

学部学生

学部学生では「している」の割合は 45.6%、「する予定」の 22.7%と合わせると 68.3%と、令和 5 年度と比較すると 19.0 ポイント高まっており、取組に意欲がある学部学生は増加しています。

学部別では「している」の割合は、「旧課程等」を除くと「国際地域創造学部」で 53.4%、「人文社会学部」で 51.4%と続きます。学年別では、「1 年生」で 48.3%と高学年よりも高くなっており、教養科目の講義や学内活動との関連づけで、学習意欲につながっていることが想定され、学年が上がってからも、大学全体で SDGs の実践活動や意識醸成を図っていくことが重要です。

経年比較 SDGs の課題解決のための取組<学部学生>



<取組をしている> している + する予定	<取組をしていない> するつもり（予定）がない
令和6年度 68.3%	15.3%
令和5年度 49.3%	-

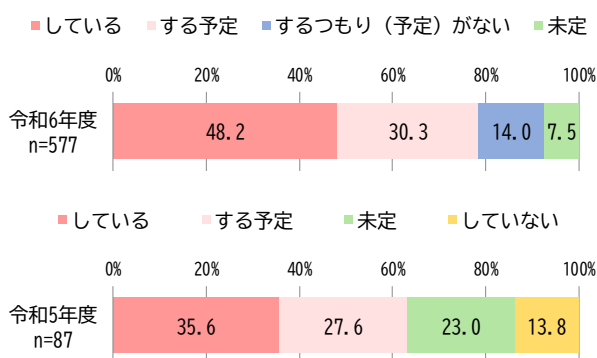
※ 令和 6 年度と令和 5 年度の選択肢が異なるため、単純比較はできません。

大学院学生

大学院学生では、SDGs の課題解決のための取組を「している」は 48.2%と令和 5 年度よりも 12.6 ポイント高まっています。

研究科別では、「している」の割合は「人文社会科学研究科（博士後期課程）」「地域共創研究科（修士課程）」「保健学研究科（博士前期課程）」「理工学研究科（博士後期課程）」「法務研究科（専門職学位課程）」で 5 割以上となっています。理工学研究科には、他の研究科よりも沢山留学生在籍しているため、研究領域がよりグローバルな分野にまたがり、実践に馴染みやすいことが考えられます。

経年比較 SDGs の課題解決のための取組<大学院学生>



<取組をしている> している + する予定	<取組をしていない> するつもり（予定）がない
令和6年度 78.5%	14.0%
令和5年度 63.2%	-

※ 令和 6 年度と令和 5 年度の選択肢が異なるため、単純比較はできません。

令和 6 年度 琉球大学 SDGs に関する教職員・学生アンケート調査
報告書【概要版】

発行：琉球大学 SDGs 推進本部 発行日：令和 7 年 3 月

所在地：〒903-0213 沖縄県西原町千原 1 番地

電話：098-895-8024（ダイヤルイン） FAX：098-895-8185

ウェブサイト：<https://sdgs.skr.u-ryukyu.ac.jp/>